

## 次号予告

### 特集 防災のモデル分析

建物および土砂崩壊のシミュレーション分析

……伯野元彦(東洋大学)

延焼シミュレーションと群集避難誘導

……糸井川栄一(建築研), 梶 秀樹(筑波大学)

火災対策とシミュレーションゲーム

……小林恭一(危険物保安技術協会)

都市防災におけるフェイルセーフ設計

……小林正美(京都大学)

防災計画における最適化…青木義次(東京工業大学)

研究レポート

DEAのモデルをめぐって……刀根 薫(埼玉大学)

## オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長	若山 邦紘	法政大学
副委員長	浦谷 規	法政大学
委員	上野 哲郎	和光大学
	大村 雄史	住友商事㈱
	城川 俊一	東洋大学
	川合 庸一	川合産業研究事務所
	小池 将貴	筑波技術短期大学
	逆瀬川浩孝	筑波大学
	坂本 善博	富士通㈱
	新村 秀一	住商情報システム㈱
	高橋 真吾	東京工業大学
	高橋 敬隆	日本電信電話㈱
	宮田 雅智	青山学院女子短期大学
	山下勝比拡	㈱東芝
	吉田 敏弘	ソロモン・ブラザーズ・アジア証券会社

## 編集後記

●最近、企業における研究開発について調べていて、気がつくことは、以前から多くの識者が指摘しているように、日本の研究開発が、欧米とは逆に独創研究よりも改良研究にかなりのウェイトがあること、また昨今のように不況で物が売れなくなると、研究開発費を減らす企業がかなりあることなどである。研究開発の重要性が、声高に叫ばれる割には、総じて、わが国の企業における研究開発のとりくみ方は、業種、規模、企業の戦略によってバラツキが大きいこともわかった。ORの分野においても同様なことが言えるように思える。つまり、従来のORのバックボーンを支えてきたLP, DP, PART, 待ち行列などの独創的な手法に対して最近では、それに比するような手法なり分野の研究開発が少ないのではないだろうか。換言すれば、ORの分野でも、独創研究よりも改良研究がほとんどを占めているように思われる。われわれORの研究者は、従来の研究分野や手法を越えた新しい応用領域や手法を開発する努力をより一層

しなければならぬように思われる。

●さて、今月は、テーマとして「学術コンピュータネットワーク」をとりあげました。特にそれらのネットワークの構築、運営に実際にたずさわっている方々に執筆をお願いしました。これらの論説を通して学術コンピュータネットワークの現状と問題点がおわかりいただけたのではないのでしょうか。たとえば、今後のORの問題としては、ネットワークのプロトコル、ネットワークアドレスの統一性、ルーティング(経路制御)などが考えられるのではないのでしょうか。

●最後に、特集に関して何かお気づきの点、あるいはご意見がありましたら、編集委員会宛にご一報ください、積極的にそれらのご意見をこれからの編集に活かしていきたいと思っております。

(城川俊一)

本誌に記載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

## オペレーションズ・リサーチ

平成4年12月号 第37巻 第12号 通巻384号

代表者 伊理 正夫

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会  
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル  
電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113

編集人 若山 邦紘

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 950円(本体822円、郵送料含)年間予約購読料10,800円(税・郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)、日経弘報社(3563-2241)へ